

熱田区に残る一番、六番などの地名。これは、かつて「熱田あつた しんでんひがしぐみ にしぐみ なんばんわり
新田東組、西組 何番割」と呼んだ旧熱田新田につけられていた地名が起源です。熱田新田には、堀川木ノ免渡のきげん
西から庄内川東岸にかけて、西国三十三観音に擬したしょうないがわとうがん
三十三の番割があり、それぞれに祀られた観音様を「番割さんじゆうさん ばんわり まつ
観音」と呼んで来ました。

慶安二年（一六四九年）竣功の熱田新田は、名古屋のけいあん く しゅんこう あつたしんでん
新田中で唯一、尾張藩が直接費用を拠出して造成した新しんでんちゆう ゆいいつ おわりはん きよしゆつ ぞうせい
田だったため「御新田」と呼ばれていました。開発は、敬公「しんでん
こと尾張藩初代藩主徳川義直の命で、国家老成瀬隼人正おわりはんしよだいはんしゆとくがわよしなお めい くにがろうなるせはやとのしやう
正虎が総指揮をとりました。その普請現場で重要な役割をまへとら そうしき ふしんげんば
果たしたのが、八田村の鬼頭吉兵衛景義だったと言われてはったむら きとうきちべ えかげよし*
います。景義は当時既に、私財を投じて福田新田を完成させた実績がありました。とうじすで しざい ふくたしんでん* じっせき

この景義は、観音信仰に厚い人で、それには次のような理由があったのです。かんのんしんこう あつ りゆう

景義が、干拓のため何度堰を築いても直ぐに流されることかんたく なんどせき きず す
が続いたある日、夢枕に白衣観音様が立たれ、お告げつづ ゆめまくら びやくえかんのん* つ

を受けます。それは、「景義、今は時期ではない。いずれ白鳥しろとりが西から飛んで来て海面みなもに降り立つ。そこに向けて堰せきを築なきなさい。」というものでした。それから毎日、西の空を眺ながめ続けた景義。ついに海面みなもに降り立つ白鳥しろとりに遭遇そつごうし、そこに向けて堰つを築くと、お告げどおり干拓せうたくは成功したのです。これが、何時いつ、何処どこの堰つを築く時の話なのかは、諸説しよせつあり、福田新田ふくだしんでんとも、熱田新田中川河口なかがわかこうの須成すなりとも、競馬場けいばじょうの北あたりとも言われています。

こうして、観音様への信仰を深めた景義は、熱田新田の三十三しゆじぶつの番割さんじぶつの守護さうご仏として、西国三十三さいごくさんじぶつさんしよ所*に対応まさせられた観音様まつをお祀りまつしたと伝えられています。幕末まくまつの嘉永六かえい年おわりだのましみず*（一八五三年）に書かれた『小治田真清水』おわりだのましみず*には、各番割かくばんわり毎ごとに観音堂しるがあったと記されています。

今、東海通とうかいどおりが南端なんたんを走る旧熱田新田ほくたん。その北端むかしの昔いまの海岸線かいがんせんの道は、百曲ひやくまがりかいどろ街道えんどうきんぺんと呼ばれ、沿道えんどうきんぺん近辺いまには今も、番割ばんわり観音堂かんのんどうが点在てんざいしています。

三十三たかしおの観音様くりかえは、地域しやうないがわでとても大事だいじにされてきました。高潮たかしおや、かつて繰返くりかえされた庄内川しやうないがわの氾濫はんらんで流されても、移転おごりく、合祀あごりく、再刻さいこくされてきたのです。こうして観音様は、

今も一七堂に分祀され、全てお揃いです。熱田区内には、
一番から九番までが六堂に分祀されています。

毎月第三日曜日には、歩き遍路の名古屋番割観音講が、

午前八時の熱田区一番を皮切りに、各札所を巡っていきま

す。先達さんに従って般若心経を唱え、御詠歌を歌い、

ご朱印を頂いて、今は新川東岸の下之一色に移された三

十三番まで、およそ八時間かけて巡拝します。

【*注】

木ノ免渡…江戸時代の堀川河口にあった渡し場。明治四一（一九〇八）年白鳥橋架橋で廃止。
西国三十三観音…京都、大阪府と滋賀、奈良、和歌山、兵庫、岐阜県にまたがる三十三の観音霊場。開創
は一一世紀頃と言われ、日本で最も古い。三十三の数は、『法華経』の「観世音菩薩普門品（観音経）」
が説く観音様の衆生救済のための三十三変化が由来。巡拝すれば現世の罪業が消え去り、極楽に行ける
との信仰がある。

〈内訳〉楊柳（ようりゆう）・竜頭（りゆうず）・持経・円光・遊戯（ゆげ）・白衣（びやくえ）・蓮臥（れんが）・
滝見（たきみ）・施薬（せやく）・魚籃（ぎよらん）・徳王・水月・一葉・青頭（しやうず）・威徳（いとく）・
延命・衆宝（しゆほう）・岩戸・能静（のうじよう）・阿耨（あおく）・阿摩提（あまたい）・葉衣（ようえ）・
瑠璃（るり）・多羅尊（たらそん）・蛤蜊（かうり）・六時・普悲（ふひ）・馬郎婦（めろうふ）・合掌・一如
（いちによ）・不二・持蓮（じれん）・灑水（しやしうい）の三十三観音。札所の観音様とは通常一致しない。
鬼頭吉兵衛景義…頼朝の叔父源為朝の子尾頭義次の末裔。福田の分家鬼頭勘兵衛（次男吉太夫忠義系勘兵
衛重勝子孫）とよく勘違いされるが、吉兵衛が正しい。私費を投じた新田開発で、港、中川区では偉人。
福田新田…一六四〇年竣工の東福田新田（現港区東福田学区）及び一六四三年竣工の西福田新田（現港区
西福田学区）の総称。

白衣観音…在家の着る白い衣を着た観音菩薩。観音経の三十三観音の一。

須成…東海通の中川橋の西側あたり。当時、自然河川中川が三角州をつくっていた。

西国三十三所に対応…例えば一番は熊野 青岸渡寺にならぬ如意輪観音が祀られる。

小治田真清水…『尾張名所図会』附録。尾張田増水を洒落た。七七年後の一九三〇年出版。

お揃い…但し、三十三番十一面観音のみ二体（港区明正三十一番割観音堂、中川区下之一色中ノ割観音堂）

熱田区一番…一番割観音堂。熱田区一番一丁目二四一四。現所在地は一八四七年の古地図と一致。

下之一色…熱田新田の西隣。現観音堂は熱田新田西端の約六〇〇メートル北西にある。当初、庄内川東岸
の熱田新田西組三十三番割に祀られていた観音様は、一七六七年頃から河原に放置（野仏）され、お世話
するために一七七六年頃、庄内川の西の下之一色に移されて祀られた。港区明正の三十三番割観音は、
その八年後の天明二（一七八二）年の再刻。下之一色の事情を知って再刻されたと見るのが自然？。



一番割観音堂 如意輪観音



九番 納経帳



番割観音西国三十三所対応表

札番	本尊	番割観音堂所在地	西国三十三所	備考
1番	如意輪観音	熱田区一番1-24-14	青岸渡寺	慈教寺 締め切り
2番	十一面観音	熱田区二番1-11-12	金剛宝寺護国院	
3番	千手千眼観音		粉河寺	
4番	千手千眼観音	熱田区四番1-7-7	施福寺	
5番	十一面千手千眼観音		葛井寺	
6番	千手千眼観音	熱田区六番1-8-10	南法華寺	
7番	如意輪観音		龍蓋寺	
8番	十一面観音	熱田区八番1-8-18	長谷寺	
9番	不空羂索観音		興福寺南円堂	
10番	千手観音	中川区十番町1-305-3	三室戸寺	
11番	准胝観音		上醍醐寺准胝堂	
12番	千手観音	港区須成町3-22	正法寺	
13番	如意輪観音		石山寺	
14番	如意輪観音	中川区松年町2-57	園城寺観音堂	天年寺
15番	十一面観音		観音寺	
16番	十一面千手千眼観音	中川区昭明町3-22	清水寺	
17番	十一面観音		六波羅密寺	
18番	如意輪観音	中川区明德町1-39	頂法寺六角堂	
19番	千手観音		行願寺草堂	
20番	千手観音	港区正徳町1-16	善峯寺	
21番	聖観音		穴太寺	
22番	千手観音	港区正徳町4-46	総持寺	
23番	十一面観音		勝尾寺	
24番	十一面観音	港区小碓4-126	中山寺	地蔵院
25番	十一面千手観音		清水寺	
26番	聖観音	港区小碓1-482	一乗寺	
27番	六臂如意輪観音		圓教寺	
28番	聖観音	港区明正1-98	成相寺	
29番	馬頭観音		松尾寺	
30番	千手千眼観音	中川区下之一色町中ノ切63	宝巖寺	2体あり
31番	千手十一面聖観音		長命寺	
32番	千手千眼観音		観音正寺	
33番	十一面観音		華巖寺	

【参考文献】

- 『熱田 歴史散歩』日下英之著 風媒社 一九九九年
- 『名古屋市中港区誌』港区制施行五十周年記念事業実行委員会編 一九八七年
- 『百曲街道と番割観音めぐり』はっけんたんけんちんけん中川区まちなちの魅力発信隊 二〇〇七年
- 『港区のおいたち聞き書 第一回 昭38.10.23』名古屋市中港区役所 一九六三年
- 『名古屋叢書続編 四 尾張徇行記(一)』(大代官支配所愛知郡村邑図録) 名古屋市教育委員会 一九六四年
- 『尾張名所図会附録 小治田真清水』文園岡田啓一八五三年著 名古屋温古会 一九三〇年
- 『観音堂由来記』後藤邦四郎著 名古屋市中川区下之一色町中之割観音講 一九六五年
- 『西国三十三所』奈良国立博物館 二〇〇八年
- 『私たちの郷土 新しい時代へ』「南陽町」名古屋市合併五〇周年記念誌』合併五〇周年記念事業実行委員会 二〇〇五年